



地域における研究の可能性 ジオパークが プロデュースする ローカルな研究

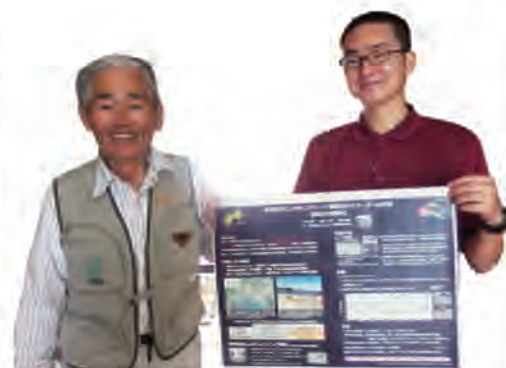
5月に千葉県で開かれた学会で、今井専門員が平野順久さんと共同で行った研究をポスター発表しました。この研究は平野さんが撮影した桜浜の写真を元に地形変化を解析したもので、約1年間の写真データを使用しました。

平野さんは、桜浜の近所に住み、約70年にもわたり、独自の観察眼で桜浜をはじめとする童串の自然を見てきた生き証人でもあります。そんな共同研究者の平野さんに写真を撮りだした経緯や桜浜に対する思いなどを聞いてきました。

平野さんが桜浜の写真を撮りだしたきっかけは？
(平野さん) 朝の散歩は毎日しようがやけど、せつかくやけん、毎日行っている桜浜の写真でも撮っておこうかと、散歩の楽しみにやり始めた。デジカメやったら写真の整理も簡単やしね。元来、凝り性でのめり込むとことんやってしまう。これもそんなかんじよ。

桜浜は長年見てきた中でどう変わってきましたか？
(平野さん) 実感として、砂浜が狭くなっちゃった。40年前の航空写真と比べても三分の一くらいになつてしまうちょう。桜浜というくらいいやけん、サクラガイで覆われた浜辺やったがやけど、最近では岩場に住んでいる貝殻ばかり。あと、砂も昔は細かったんだけど、最近では礫が多くて、砂粒も太い。そんなこともあって、記録として残したいと思うて写真を撮るようになったがよ。

平野さんと今井専門員の桜浜の地形変化の研究では特別な発見があったわけではありません。しかし、研究を継続していくことで、桜浜の形成史が明らか



平野順久さんと今井専門員

になり、世界的な課題である砂浜侵食や沿岸環境の保全に新しいアイデアを与えることができるかもしれません。

平野さんは、子どもの頃から、身の回りの自然環境に興味を持ってきたそうで、気になることがあったら、自身のネットワークを使って調べてきたそう。今回も砂浜の話だけでなくアカウミガメや童串海岸の石材の利用のことなどたくさん教えていただきました。

ジオパークを通して見えてきたのは、地域の歴史や自然をコツコツと調べている方がたくさんいるということ。各地に点在している知の点を分野横断的にうまくつなぎ合わせていくこともジオパークの役割の一つです。大学などの研究者の中にも土佐清水をフィールドに研究をしている方はいますが、彼らはいずれも土佐清水で調査ができるわけではありません。それを下支えするのは、地域に住む在野の研究者たちの力です。地域住民による調査・研究にかかわる情報を集め、研究をプロデュースし、地域に研究成果を還元していく。そんなこともジオパークができることです。

地域で身近な自然について観察、記録している方や、面白そうな情報をお持ちの方はぜひジオパーク推進協議会にご連絡ください。専門員をはじめジオパーク推進協議会が中心となって、研究をプロデュースします。コツコツつけてきた記録が世界的な発見につながるかもしれません。

とさしみずの研究

平成30年度学術研究
支援事業の紹介(全5回)

第3回

土佐清水八景・三十六景・八十八か所の選定とそのプレゼンテーションからスタートする観光・地域づくり

研究した人

高知工業高等専門学校ソーシャルデザイン工学科准教授 三橋修さん

今回紹介する三橋先生は建築や景観がご専門。建築や土木といった観点から土佐清水ジオパーク構想エリアの地域資源を調査していただきました。研究では、登録文化財となったモダニズム建築の傑作「海のギャラリー」など、土佐清水の風土が作った景観を「土佐清水八景」としてピックアップ。自然と人の暮らしが織り成す景観はジオパークを構成する重要な要素です。土佐清水らしい景観を見つけ、さらにいい景観を作っていきたいですね。



FUMITO SUZUKI

今年、登録文化財となった海のギャラリー。女性建築家のバイオニア林雅子氏の設計で、日本のモダニズム建築を代表する作品の一つ。

10連休中のテレビでは、オープンしたてのスノーピーク土佐清水キャンプフィールドの映像が流れる。海に隣接するキャンプ場がうたい文句。世界的建築家、隈研吾作の「住箱」と呼ばれる宿泊施設が話題に拍車をかけている。

直ぐお隣の海のギャラリーは、国の登録有形文化財に指定された。有名女性建築家・林雅子作で、取壊しの危機を乗り越え、保存・指定の運びとなった。土佐清水市民の思い、熱意の賜物である。

海に目を向けば、劇画的海洋建築の足摺海底館がある。1970年の大阪

万博後、海洋建築に夢を馳せた象徴的建築で現代建築史に幾度となく登場している。

魅力的な建築と食、自然、歴史、生活が織りなすものが景観(風景)である。土佐清水の豊かな海とジオから生まれ、営まれた景観を探究したものが私の研究である。

リニューアルオープンが待たれる新足摺海洋館「SATOUMI」が新たな景観になる頃、土佐清水日本ジオパークの認定を皆さんと喜びたいと感じている。(高知工業高等専門学校准教授 三橋修)

発行

土佐清水ジオパーク推進協議会 〒787-0392 土佐清水市天神町11-2
TEL 82-1115 MAIL geopark@city.tosashimizu.lg.jp

推進協議会 HP



facebook

